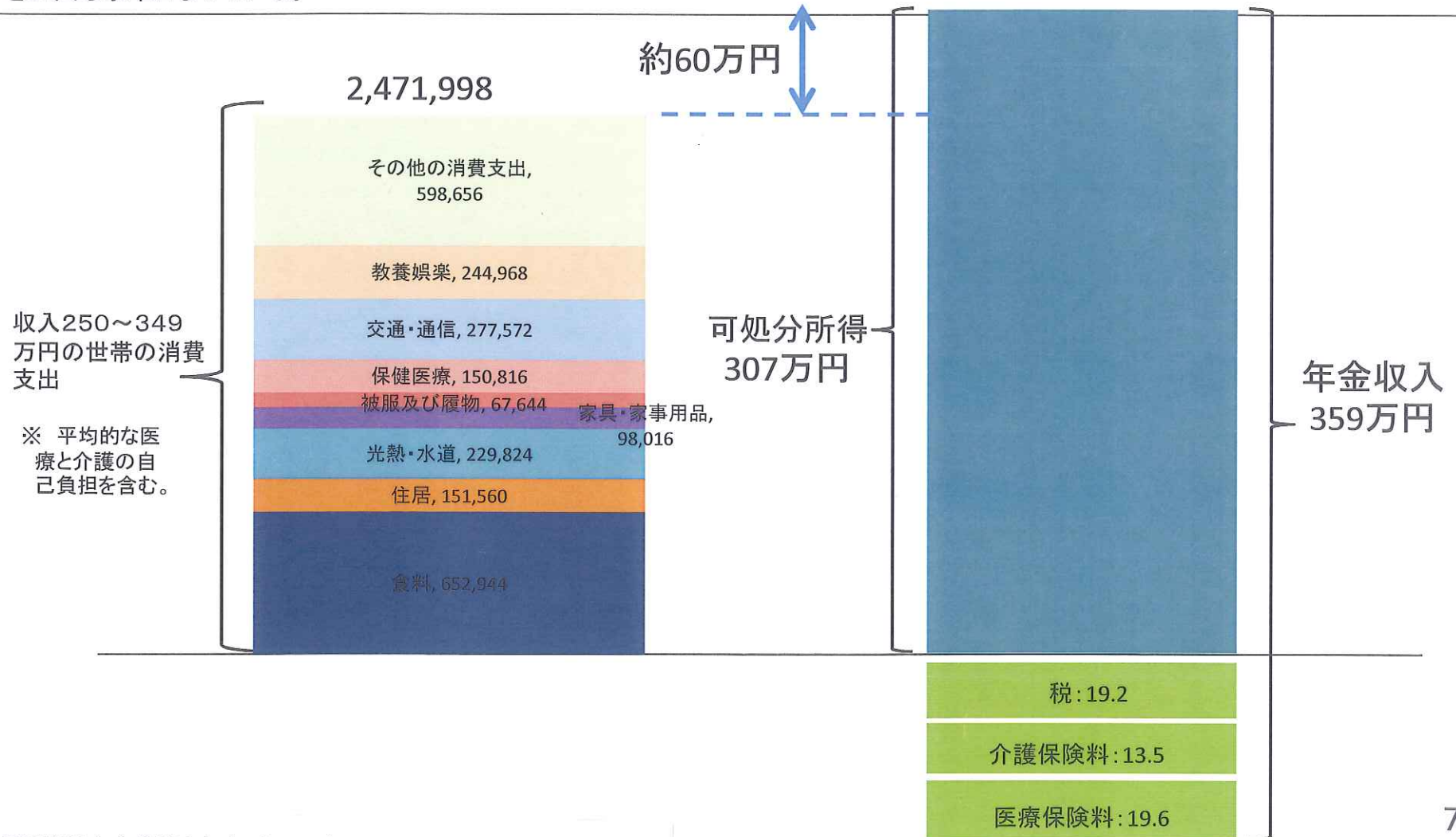


# 案1で無職夫婦高齢者世帯の場合の収支状況

- 案1に該当する者が無職高齢者夫婦世帯の場合について、夫の年金が年額280万円(合計所得金額160万円+公的年金等控除120万円)、妻が国民年金(79万円)と仮定し、税や保険料を支払った後の所得と、無職高齢者世帯のうち収入が250万円~349万円の世帯の平均的な消費支出(平均的な医療と介護の自己負担を含む。)を比較する。
- 可処分所得と消費支出の差は約60万円となり、後期高齢者医療と介護保険における自己負担の世帯単位での上限となる56万円を上回る水準となっている。

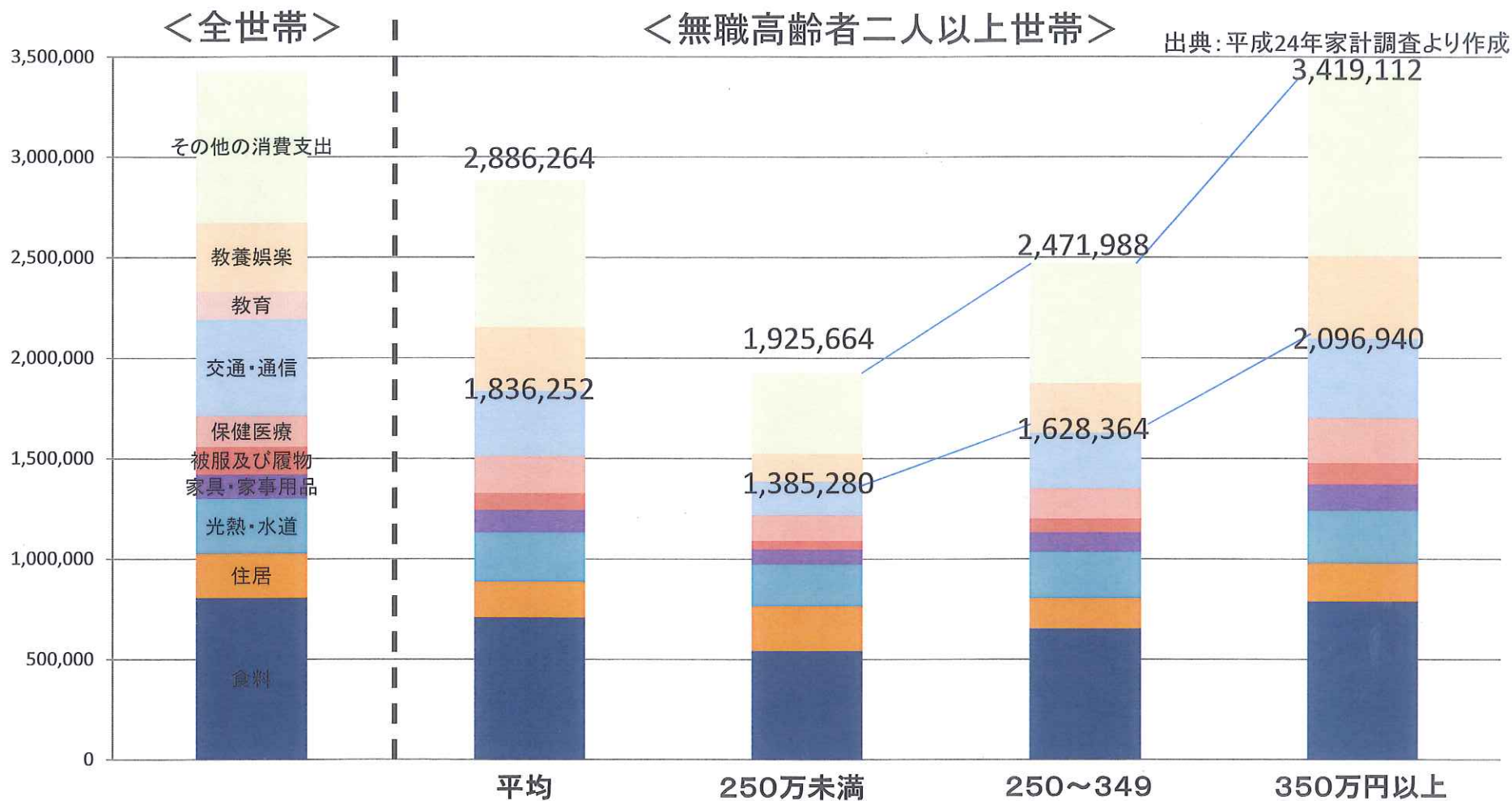


出典：社会保障審議会介護保険部会（2013年12月20日）厚生労働省資料

2014年6月5日 参議院厚生労働委員会提出資料 日本共産党 小池晃

# (参考) 無職高齢者(二人以上)世帯の消費支出(全体・収入階級別)

- 全ての二人以上世帯(平均世帯人員3.07人)の消費支出は、年間ベースで約343万円。
- 一方で、無職高齢者二人以上世帯(男65歳以上・女60歳以上の者のみからなる世帯で少なくとも一人は65歳以上であり、世帯主が無職の世帯。平均世帯人員:2.02人)の平均的な消費支出は年間ベースで288万円程度。
- 収入が高いほど全体の消費支出が増えている(特に教養娯楽・その他の消費支出)。収入が250万円~349万円の範囲の者の平均的な消費支出は247万円程度。



## 高齢者無職世帯(男性65歳以上、女性60歳以上、世帯主が無職)

年度	2012			
	全体	250万円未満	250～349	350万円以上
年収(前年年収)				
集計世帯構成比(%)	100.0	12.0	37.2	50.8
世帯人員	2.04	2.01	2.02	2.06
年間実収入(万円)	261.4	165.9	225.4	310.7
公的年金	243.4	154.1	214.6	286.0
その他社会保障給付	1.2	5.4	0.5	0.8
仕送り金	0.5	0.4	0.3	0.6
世帯主以外の勤労収入・事業収入	8.0	2.3	4.6	11.9
財産収入	2.6	0.1	0.8	4.5
受贈金など特別収入	5.8	3.6	4.7	7.0

実収入以外の収入	53.2	37.0	41.9	65.1
預貯金(純引出し)	39.2	39.6	43.5	35.8
保険金(純受取)	13.4	▲ 1.1	0.4	26.4
有価証券(純売却)	0.2	0.0	▲ 0.1	0.4
純借入金	2.0	▲ 1.3	0.5	4.0
財産売却その他(純)	▲ 1.7	▲ 0.2	▲ 2.5	▲ 1.5

消費支出	288.6	192.6	247.2	341.9
非消費支出	36.1	15.9	28.0	46.8
勤労所得税	0.0	0.0	0.0	0.1
個人住民税	4.7	0.9	2.6	7.1
他の税	10.8	4.9	8.4	13.8
公的年金保険料	0.4	0.5	0.1	0.5
健康保険料	13.3	5.3	10.8	17.1
介護保険料	6.9	4.3	6.1	8.1
その他	0.1	0.0	0.0	0.1
実支出(消費支出+非消費支出)	324.7	208.5	275.2	388.7

年間家計収支(実収入-実支出)	▲ 63.4	▲ 42.5	▲ 49.9	▲ 78.0
-----------------	--------	--------	--------	--------

可処分所得(実収入-非消費支出)	225.3	150.0	197.3	263.9
------------------	-------	-------	-------	-------

	2013			
	全体	250万円未満	250～349	350万円以上
年収(前年年収)				
集計世帯構成比(%)	100.0	12.4	37.1	50.5
世帯人員	2.03	2.03	2.03	2.04
年間実収入(万円)	258.1	171.2	219.0	308.4
公的年金	239.1	160.3	207.9	281.5
その他社会保障給付	1.1	4.0	0.9	0.5
仕送り金	0.6	0.8	0.6	0.6
世帯主以外の勤労収入・事業収入	8.0	2.4	3.9	12.5
財産収入	3.1	0.4	0.5	5.8
受贈金など特別収入	6.1	3.3	5.3	7.4

実収入以外の収入	61.4	29.3	50.9	76.9
預貯金(純引出し)	42.2	28.9	48.8	40.3
保険金(純受取)	16.0	0.5	1.3	30.8
有価証券(純売却)	0.2	0.2	0.0	0.4
純借入金	3.3	▲ 0.0	1.4	5.4
財産売却その他(純)	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 0.6	▲ 0.0

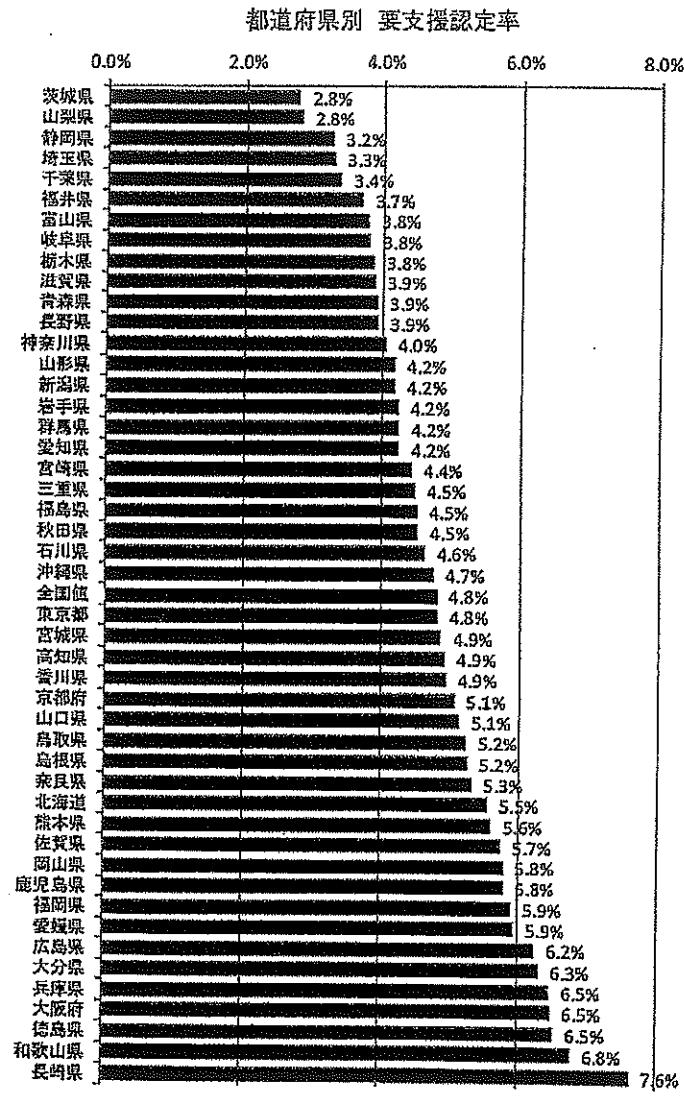
消費支出	292.8	190.1	250.9	348.8
非消費支出	35.9	16.4	26.9	47.2
勤労所得税	0.1	0.0	0.0	0.1
個人住民税	4.8	1.0	2.4	7.6
他の税	10.3	5.2	7.4	13.7
公的年金保険料	0.2	0.1	0.1	0.4
健康保険料	12.9	5.1	10.6	16.6
介護保険料	7.5	5.0	6.4	8.9
その他	0.0	0.0	0.1	0.0
実支出(消費支出+非消費支出)	328.6	206.5	277.8	396.0

年間家計収支(実収入-実支出)	▲ 70.5	▲ 35.3	▲ 58.8	▲ 87.7
-----------------	--------	--------	--------	--------

可処分所得(実収入-非消費支出)	222.2	154.8	192.1	261.1
------------------	-------	-------	-------	-------

出典：総務省「家計調査」により集計、小池晃事務所作成

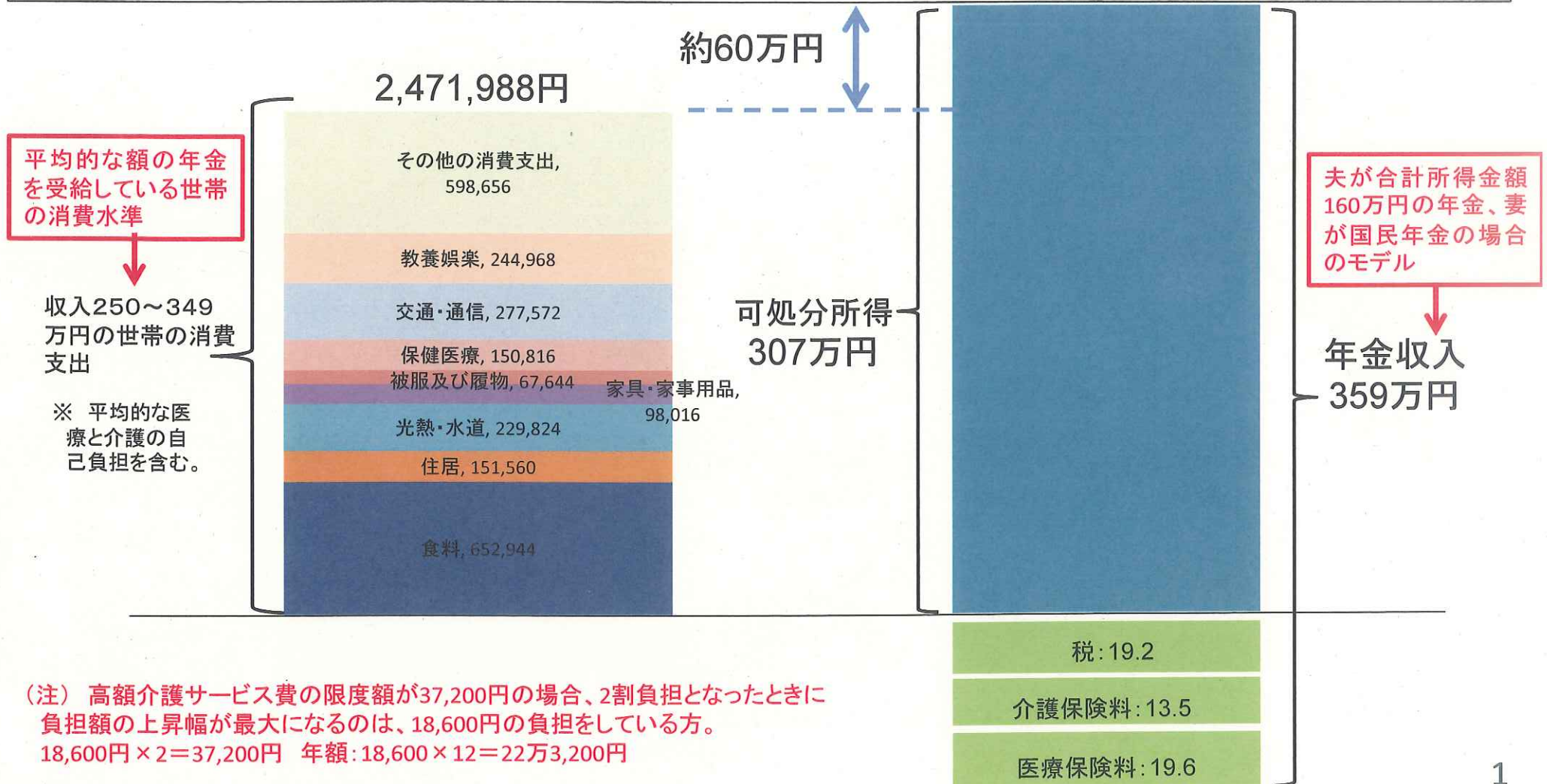
# 都道府県別にみた認定率(要支援・要介護1)



# 無職高齢者夫婦世帯の場合の収支状況

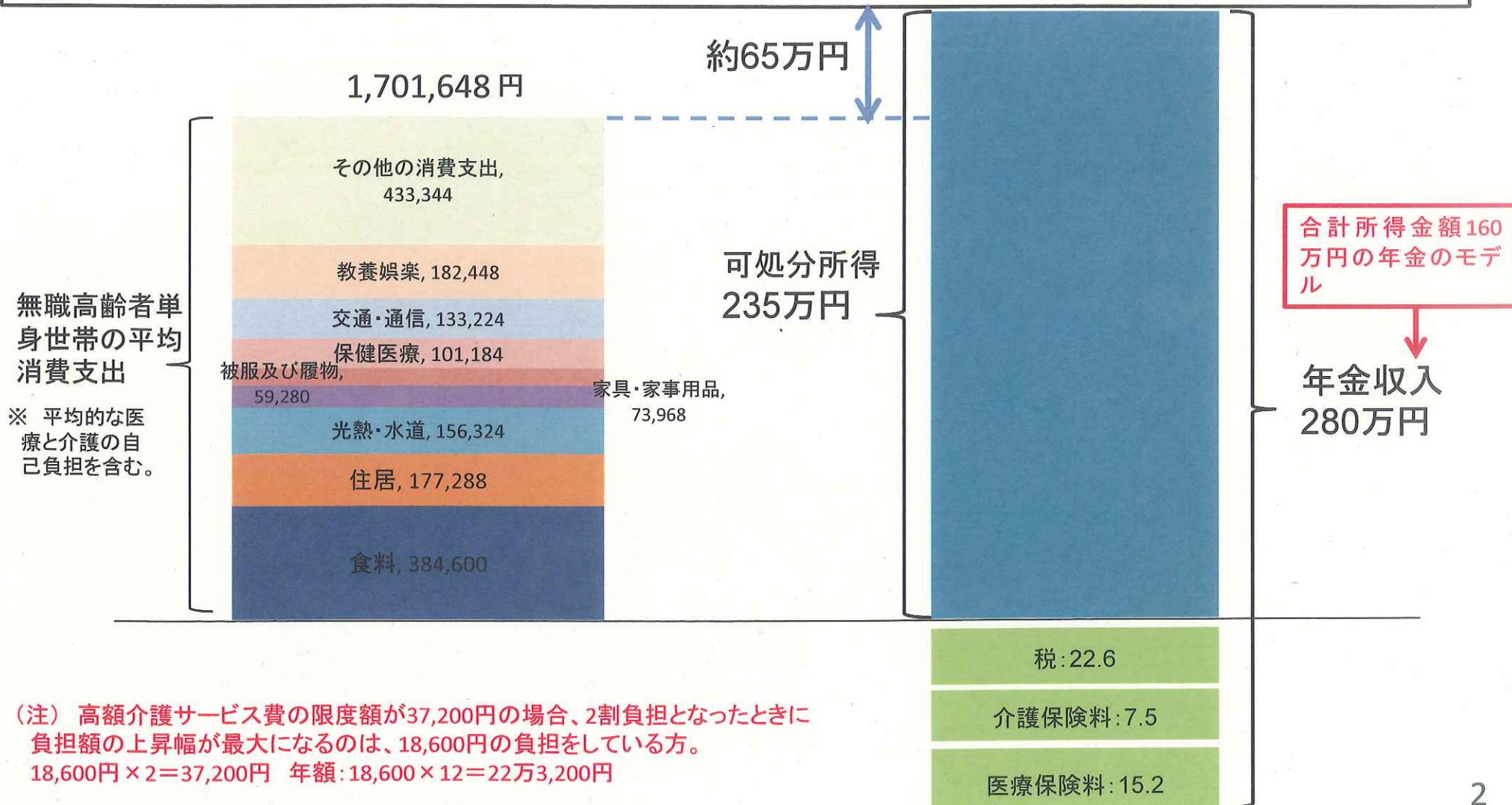
2014年6月5日  
厚生労働省老健局

- 無職高齢者夫婦世帯の場合について、夫の年金が年額280万円(合計所得金額160万円+公的年金等控除120万円)、妻が国民年金(79万円)と仮定し、税や保険料を支払った後の所得と、無職高齢者2人以上世帯のうち収入が250万円~349万円の世帯の平均的な消費支出を比較する。
- 厚生年金と国民年金の平均額の合計(182万円+66万円)が247万円であることを踏まえると、消費支出を年間収入250万円~349万円の世帯の消費水準にやりくりしていただければ、モデル収入の可処分所得との差が約60万円となり、2割負担となっても、高額介護サービス費により、負担の上昇幅は、年額約22万円以内(注)となるため、ご負担をお願いできる水準と考える。



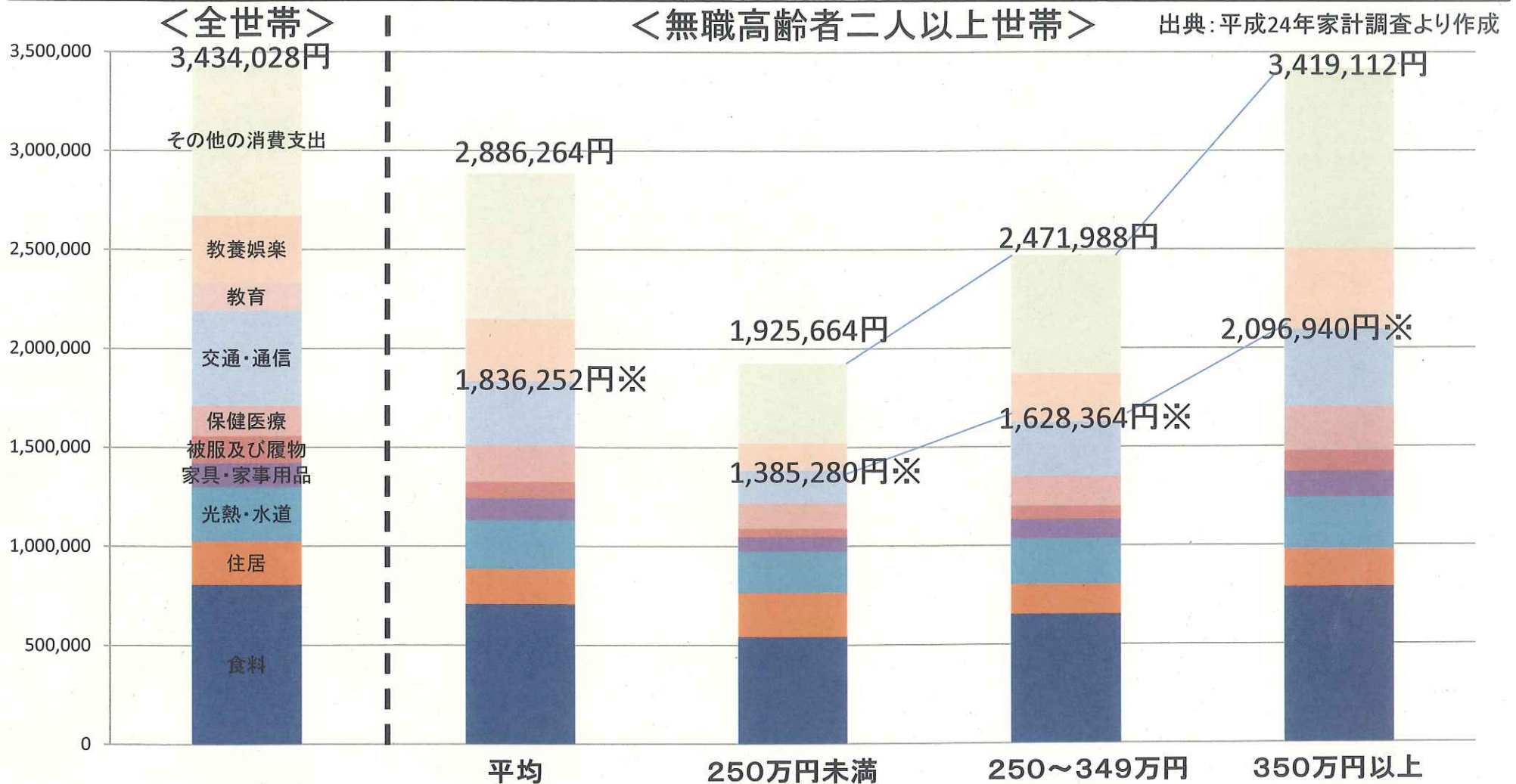
# 無職高齢者単身世帯の場合の収支状況

- 無職高齢者単身世帯の場合について、年金が年額280万円(合計所得金額160万円+公的年金等控除120万円)と仮定し、税や保険料を支払った後の所得と、無職高齢者単身世帯の平均的な消費支出を比較する。
- 消費支出を平均的な無職高齢者単身世帯の消費水準にやりくりしていただければ、モデル収入の可処分所得と消費支出の差が約65万円となり、2割負担となっても、高額介護サービス費により、負担の上昇幅は、年額約22万円以内(注)となるため、ご負担をお願いできる水準と考える。



# (参考) 無職高齢者(二人以上)世帯の消費支出(全体・収入階級別)

- 全ての二人以上世帯(平均世帯人員3.07人)の消費支出は、年間ベースで約343万円。
- 一方で、無職高齢者二人以上世帯(男65歳以上・女60歳以上の者のみからなる世帯で少なくとも一人は65歳以上であり、世帯主が無職の世帯。平均世帯人員:2.04人)の平均的な消費支出は年間ベースで約288万円。
- 収入が高いほど全体の消費支出が増えている(特に教養娯楽・その他の消費支出)。収入が250万円~349万円の範囲の者の平均的な消費支出は約247万円。



## 無職高齢者世帯の1年間の収入と支出

	年間収入階級			
	250万円未満	250～349万円	350万円～	平均
実収入	1,659,252	2,253,888	3,107,304	2,613,804
金融資産の純減等(注)	425,388	498,636	779,844	633,660
消費支出	1,925,664	2,471,988	3,419,112	2,886,264
非消費支出	158,976	280,536	468,024	361,200
可処分所得	1,500,276	1,973,364	2,639,280	2,252,604

※平成24年家計調査の1世帯当たり1ヶ月間の消費支出等を12倍したもの

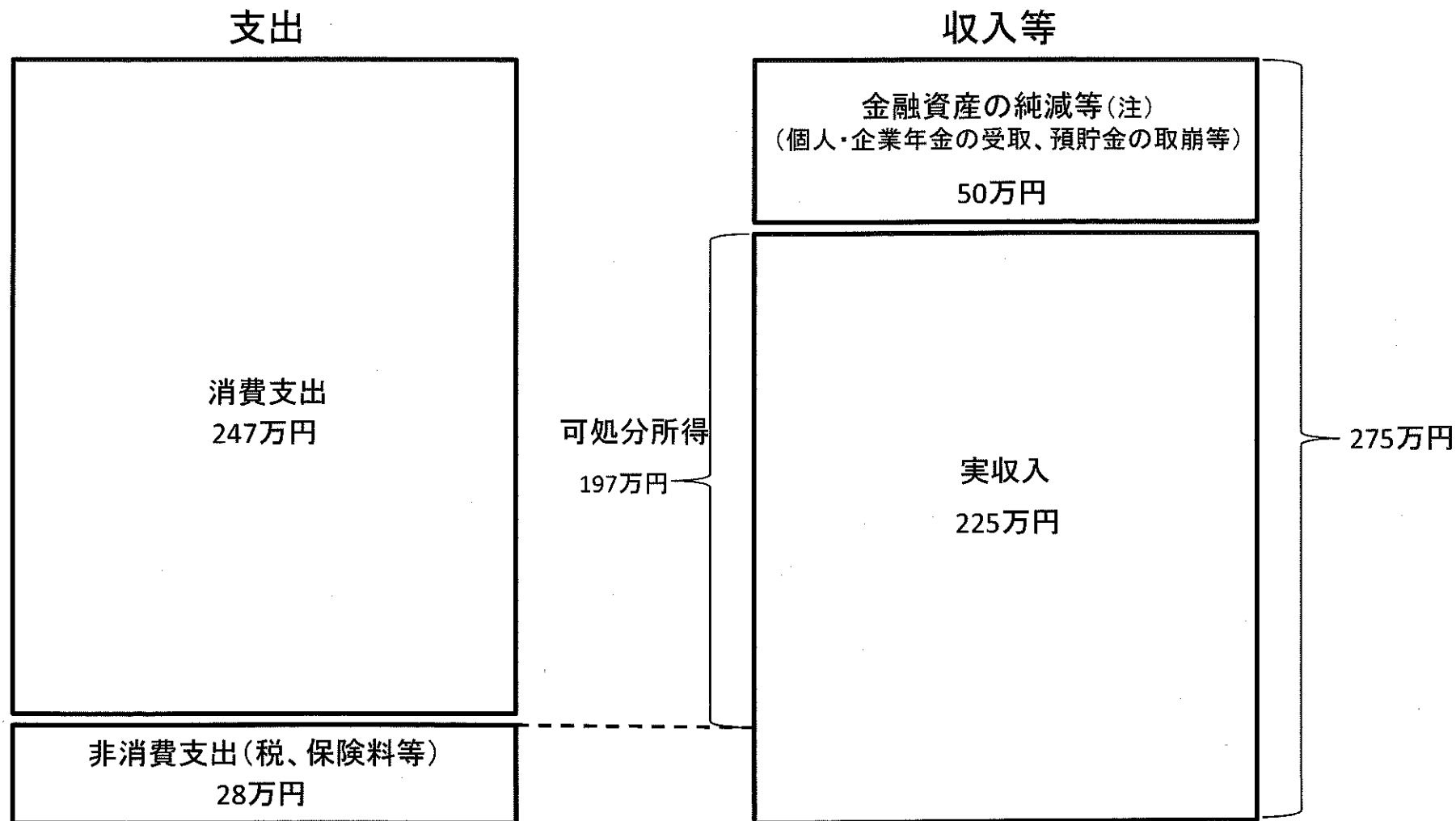
※年間収入階級は、過去1年間の収入であり、調査時点の収入である実収入とは一致しない。

(注)個人・企業年金の受取、預貯金の取り崩し等。統計表上は、金融資産の純増等を含む「黒字」がマイナスで計上されている。



# 無職の高齢者世帯の家計の状況

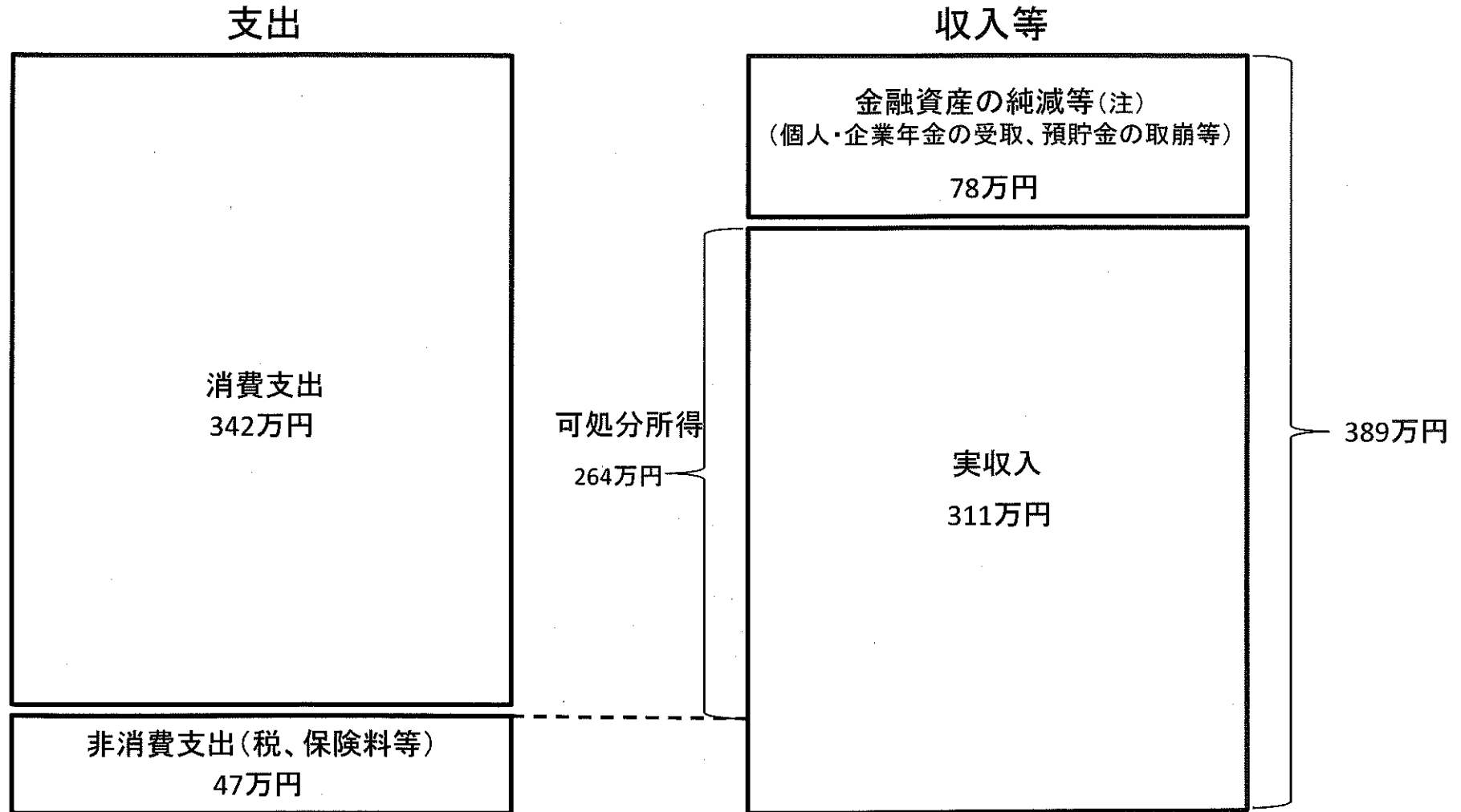
○過去1年間の収入250～349万円の世帯



出典:平成24年家計調査年報(第3-12表)より作成。無職の高齢者世帯の年平均の1世帯当たりの1月当たりの消費支出等に12を乗じたもの  
(注) 統計表上は、金融資産の純増等を含む「黒字」が△50万円となっており、これを計上している。

# 無職の高齢者世帯の家計の状況

○過去1年間の収入350万円~の世帯



出典:平成24年家計調査年報(第3-12表)より作成。無職の高齢者世帯の年平均の1世帯当たりの1月当たりの消費支出等に12を乗じたもの  
(注) 統計表上は、金融資産の純増等を含む「黒字」が△78万円となっており、これを計上している。